



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

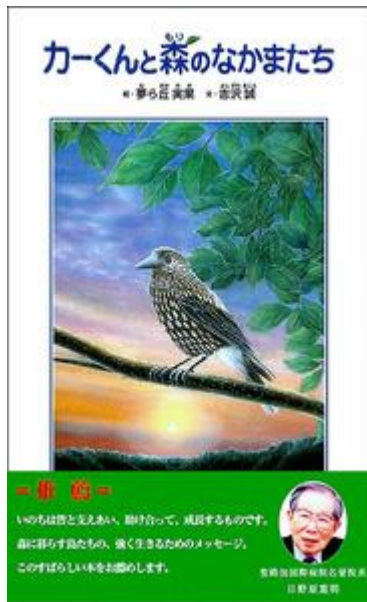
## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3275 号 2016.9.24 発行

自殺予防へ絵本の授業500回 絵本作家の夢ら丘さん 片山健志

朝日新聞 2016年9月23日

読み聞かせの後、自身の経験を生徒に話す夢ら丘実果さん=東京都中野区の宝仙学園中学校理数インター



子どもの自殺を食い止めようと、絵本作家の女性が全国の学校などを回り、自作の絵本の読み聞かせ

を続けている。2007年に始めてから今夏で500回を超えた。「あなたがいるだけでうれしい」。そんなメッセージが多くの子どもたちの心に届いている。

「ぼくなんか、いてもいなくてもいいみたい」

世界自殺予防デーだった10日、東京都中野区の宝仙学園中学校理数インターの1年生137人を前に、絵本作家・画家の夢（む）ら丘（おか）実果さんが絵本を読み進めた。

知人の絵本作家、吉沢誠さんが文を、夢ら丘さんが絵を受け持った「カーくんと森のなかまたち」。自分に自信を持てなくなったホシガラスのカーくんが、仲間の鳥たちに話を聞いてもらったり、励まされたりして元気を取り戻す話だ。

夢ら丘さんは自分が小学生の時にいじめられた体験や中学で美術の先生が自分をほめてくれたエピソードを交え、「みんなに良いところが、その人だけにしかできないことが、必ずあります」と語りかける。カーくんが仲間に助けられたことを踏まえ、「自分に元気が出ないと思ったら、お友達や先生など信頼できる人にぜひ話してほしい」とも呼びかけた。読み聞かせは吉沢さんと一緒に回る。この日も吉沢さんが、「気持ちが暗くなって、何もしたくないことはだれにでもあるよね」とうつについて語った。文部科学省の担当幹部も同席し、「皆さんの悩みは社会全体で受け止める」とした。

女子生徒の一人（12）は「私も小学校でいじめられ、消えてしまいたいと思ったことがあるから、カーくんの気持ちがわかって泣きそうでした」。

夢ら丘さんには20年余り前、忘れられない経験がある。知人の女性が生まれて間もない長女をあやしてくれた約1カ月後、自ら命を絶った。夫を亡くして苦しんでいたことを知り、「ショックでした。寂しくて追い詰められていたんだと思う」。長女の小学校では、同級生の外国人の男子への深刻ないじめが起き、自殺未遂もあった。放っておいたらどうなるんだろう。絵本で子どもの心に何かを届けたい——と思い立った。

絵本作家としてデビューして間もない02年、自転車で銀行に行った帰り、後ろから車にはね飛ばされる事故にあった。右手などにしびれが残り、しばらく絵筆がとれずに展示会の予定はキャンセル。家事も思うようにいかず、自分なんかいないほうがいいのかと思うほど思い詰めていた時、「お母さんがいるだけでうれしい」という長女の言葉に救われた。

### 生活保護の男性、3割超がメタボ 女性も非受給者の3倍 朝日新聞 2016年9月23日

生活保護を受けている男性では、3人に1人がメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）で、喫煙者が4割以上いることが厚生労働省の調査で分かった。いずれも生活保護を受けていない男性より割合が高い。受給者は健康への関心が低いという結果もあり、厚労省の担当者は「食事が安くて高カロリーのジャンクフードなどに偏っているとみられる」としている。

2014年度にメタボ健診を受けた40歳以上の生活保護受給者約10万8千人の診断結果を分析した。メタボと診断されたのは男性が32・7%で女性が17・5%。受給していない男性（21・0%）より10ポイント以上高く、女性は3倍近かった。

60代後半の男性が34・6%（受給者以外は27・4%）、70代前半の男性が33・3%（同26・9%）と割合が高い。受給男性の喫煙率は43・0%（同33・7%）で、とくに50代が51・9%と多かった。

生活保護費のうち約半分は医療扶助が占めている。厚労省は医療費を減らすため、今年度中に受給者の生活習慣病対策をまとめる方針だ。（井上充昌）

### イマ知り！「妻ロス」

カンテレワンダー 2016年9月15日

愛する妻に先立たれた夫が、悲しみから立ち直れない状況を意味する『妻ロス』。配偶者との死別で夫が残された場合には、精神面だけでなく生活面でも大きなストレスを抱え、「うつ状態」に陥るなど、深刻化することも。

悲しみから立ち直るには、どうすればいいのでしょうか？



今日のイマ知り！は...

「悲しみを乗り越える...『妻ロス』からの脱出」をお送りします。

日本人の平均寿命は、男性が80.79年、女性が87.05年。

「女性の方が長生き」というイメージがあるせいか、多くの男性が「妻が先に亡くなる」とは予想していない...という声も。

【街頭インタビュー】

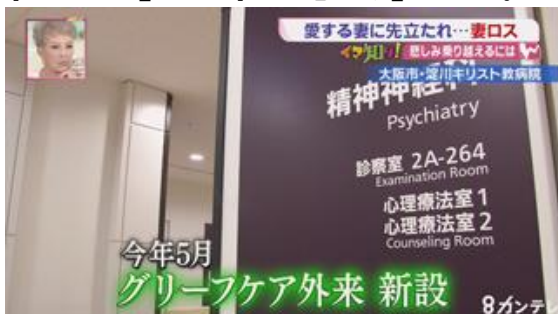
Qもし妻に先立たれたら？

（40代の男性）「(妻を) そういうのを亡くした時にどうやって生きていくか、全く考えた事無い。間違いなく(頭の中が) 真っ白になると思います」

（60代男性）「嫁さんが死んだら、旦那も早く亡くなるっていうのが分かる」

死別を経験した遺族に寄り添い、サポートする取り組みとして、今注目されているのが『グリーンケア』。

『グリーンフ』とは『深い悲しみ』のこと。



【出崎さん】 家長として自分が崩れてしまっ



妻・輝子さんとの別れは、あまりにも突然でした…。

【再現ドラマ】

子供はおらず、その分、買い物や旅行など、ともに過ごす時間を大切にしてきた、佐々木さん夫婦。

スポーツが大好きだった輝子さん。

その日はバドミントンの試合でした。

武 今日も試合がんばってな。  
輝子 任せといて！じゃあね、行ってきます  
武 来週は沖縄旅行やな。暑ないやろか。  
輝子 そりゃ暑いやろ。  
武 何着て行こかな？  
輝子 じゃ今晚、服出しておくわ。  
武 お、頼むわ！  
輝子 じゃ、行ってきま～す  
武 いってらっしゃい！

それが、妻・輝子さんとの最後の会話でした。

その日の夕方、輝子さんは突然倒れ、救急搬送。

武 輝子…！  
医師 輝子さん、聞こえますか！  
武さんが病院にかけつけてまもなく…  
医師 ご臨終です  
急性心筋梗塞でした  
夢中で葬儀を終えた佐々木さん。

その後待っていたのは、妻のいない日常でした。

今年5月、全国でも数少ない『グリーンケア外来』を新設したのが、大阪市の淀川キリスト教病院。

担当する臨床心理士の出崎 躍さんによると、男性の多くは、「弱み」や「未練」といった感情表現をためらいやすく、立ち直るまでに時間がかかると指摘します。さらに…

【淀川キリスト教病院 臨床心理士・出崎躍さん】 我が家が立ち行かなくなるという思いもあり、その自意識のため心の痛みを押し隠して過ごすことがあるかも知れません。

※出崎躍さんのお名前前の「崎」の字は「大」の部分が「立」です。

【佐々木武さん】 自分だけが独りで苦しんでると思ってました。世の中の苦勞を全部自分が背負ってると思ってました。

10年前に妻を亡くした佐々木さん（73）



それまで、家事はすべて妻に任せきりだったため食事の用意も一苦労。

武 (乾燥わかめを手でつかみ)  
このくらいでええんやろか...。(鍋に入れる)



アツッ!  
なんやこれ! わかめだらけや  
ないか...

佐々木さん「食欲が全然無くなった。体動かすために何か食べないといけない事は分かっているんだけど、欲しくない。

口の中にねじ込んだとしても、砂と一緒に嚙んでるイメージ。

必ずビールなど酒と一緒に飲まなければ一緒に流し込まなければ入らなかった。

だいたい落ち込んだ時期が3ヵ月前後...

ほとんど外出はしないんです。外に出るのが嫌。スーパーに行って、夫婦で買い物している姿を見たり、ハトとかネコがコンビニになって動いてるうらやましくて うらやましくて...セットでいるということが...」

そんな佐々木さんを心配した友人が訪ねてきてくれるのですが...

友人 あれからどないしてるやろかって気になって...

武 ああ...

友人 それにしても...  
ちょっとやつれたんちゃう

か...?

武 大丈夫...

友人 ...そうや! お笑いでも見に行かへんか?

丁度チケットもらってん!

友人の誘いはありがたく、気晴らしにでもなるかと「お笑いライブ」足を運んだのですが...

周囲が大笑いしている中、佐々木さんは、何も感じるできませんでした。

佐々木さん 「せっかく行って「笑い」をなんとかと友達がそう思ってくれたんだけど、(友人に) 申し訳ない事をしたと思いました。」

体重は3ヵ月で10kgも減り、すっかり気力を失った佐々木さんは...

武 こんな苦しいんやったら、いっそ線路に飛び込んでしまおうか...

佐々木さん「頭の中は真っ暗ですから。生きがいも何もありませんので、もしこのまま飛び込んで命を亡くせばこんな楽な事はない...そういうことも考えました。」

妻の死から3ヶ月たったころ、わらにもすが  
る思いで、葬儀会社主催の伴侶を亡くした人  
たちの交流会に参加。

武 私は3ヵ月前に妻が亡くなっ  
たんですけども...

これから一人でやるの、大変で  
すわ...

参加者A わかります、その気持ちは十分。ねえ。

参加者B はい。僕もずっと妻に任せきりでした。

同じ経験を持つ人に出会い、初めて自分の思いを打ち明けることができたといいます。



武 うまいです... (嬉しくて涙をこらえている)  
佐々木さん「本当に久しぶりに、おいしく食べた覚えがあります。」



皆で会話をしながら食べれる食事ってこんなにおいしいものかって思ったんです。同じ苦しみ、悲しみを共有したから世の中の苦労を自分独りで背負ってるっていう考え方、間違っていた。自分独りじゃない。ちょっと心が軽くなった気がしました。オレだけじゃないんだ。同じ悩みを体験したも同士の士が語るこれが最高の薬じゃなかったかと思えます。」

この日をきっかけに、佐々木さんは自分の思いを打ち明けられるようになり、日常を取り戻すことができたと言います。

いつか訪れる、突然の別れ。あなたはその備えができていますか？

さよならを言う前に～終末期の医療とケアを語りあう～

【相模原殺傷事件】きたるべき未来のために 読売新聞 2016年9月22日  
テーマ：緊急特集「相模原殺傷事件 私はいこう考える」

2016年7月26日の深夜、「津久井やまゆり園」で19名の尊い命が奪われました。容疑者は意思疎通ができない最重度の者を選んで殺害したと言います。

この事件のあと、私の同僚で障害を持つ人たちは、「自分も突然、刺されるのではないか。人混みの中に車椅子でいるのは危険」と言いました。一時的にせよ、地域社会を信頼できなくなってしまったのです。

事件からしばらく経ち、各所で対策が練られています。障害者団体は相次いで声明文を出し、優生思想（人類の発展のためには劣勢な遺伝子を持つ者は淘汰しなければいけないという思想）がこのような形で現れたことに抗議しました。

一方、国は再発防止策として精神病患者の措置入院のあり方を改め、監視体制を強化しようとしています。また、障害者施設のセキュリティ（防犯対策）も強化し、外部からの侵入を取り締まろうとしています。「それらの処置の方向は違っているぞ」と言いたいところですが、それは障害当事者に任せて、私は私が受けた衝撃について（きっと異論はあるかと思われませんが）、正直に記してみたいと思っています。

「うちの子だったら」と想像し、やるせなく

私には容疑者と同年代の息子がいます。それで、この事件を知った時から、容疑者のご両親の心境を想像してしまっ、どうにもやるせなくて。こんなことをいったら顰蹙を買うかもしれませんが、「うちの子だったら」と想像が膨らんで辛いのです。きっと大切に育てられたのに、なぜ？ 取り返しのつかない罪の重さです。

報道によると、容疑者には明るく素直な面もあったということです。近所の庭の草刈りを率先して行ったり、親を尊敬していて、自分も教師になろうとしたりしていました。子どもたちにも人気があった。

それなのに、大学の中途から、人が変わっていったという。容疑者は、「国のために障害者を殺戮した」と言う。犯行予告として衆議院議長に宛てた手紙の内容も、およそ正気とは思えませんが、犯行の手口や反省の無さを見ると、確信犯であることは明白です。死刑も覚悟の上でやったという。なんとも幼稚で哀れです。

でも、弱った心が救いを求めていた時期もあったでしょうに。その時救済する手立てはなかったのか。同年代の息子を持った母親として、大変動揺しています。

未来に不安を抱える若者たちに メディアが与える影響

容疑者が成長する過程で、メディアで平然と、重度障害者や病気の高齢者に対して侮蔑的な発言をする日本の政治家や著名人がいました。「高齢者は『適当な時に死ぬ義務』がある」と言った曾野綾子氏、「(重度心身障害児を指して) ああいう人ってのは人格あるのかね」と言った石原慎太郎氏、「オイいつまで生きてるつもりだよ」と言った麻生太郎氏。すべて「血税を湯水のように使うだけの役立たずは死ぬ」という意味です。そして国会では、重度障害者の生存に必要な治療の停止に道を開きかねない「尊厳死」法案の準備が進められていました。

私が20代の頃の日本は、「皆が中流意識を持っている格差が少ない社会」と言われ、退屈でも平凡な生活が保障されていました。今の20代はどうかといえば、生まれた時からこの国の経済は不調と言われ(今振り返れば、安全で良い国であったと思いますが)、終身雇用も崩れ去り、平凡な人生を望むとしても、どこに向かって努力したらいいのかわからなくて、価値観が定まらず、心が揺れている若者が大勢います。うちの子にしても、明らかに私が過ごした20代の頃とは違います。未来の厳しさをじっと見つめています。

そこにもってきて、「働けず介護が必要な者に対する社会保障費の増大が国の経済を揺るがして、若い世代の負担が増大する」という政治家や有識者のコメント。私は「また言ってる」程度に思っていたのですが、若者の不安は煽り立てられるばかり。

容疑者の顔と我が子の顔とが、二重に脳裏に浮かんでしまうのを、何度もかき消しました。容疑者と同じ時代の空気を吸っているうちの子も「口先だけの政治家にはできないこと」を率先してやってしまうかもしれない。

実は、国家安全保障について持論を展開する息子とは、今年の今頃、よく激しい議論になりました。「国を守るためにできるだけのことをしたい。今のままでは日本はダメになる」という息子の強い危機感と意思は、あの容疑者の手紙に散らばる「日本国と世界の為」「全人類の為に必要不可欠である辛い決断をする時」などという文言からも読み取れるもの。

その手段はまったく違っているとしても、どちらの母も、「お前たちを産んだのは、国に捧げるためでもないし、まして、国のために人を殺めさせるためでもない」のです。

#### **障害者や高齢者への侮蔑発言 認めない社会へ**

希望を失った若者の心に、暗黒の闇を生み出してしまった責任は、彼らの貧困を障害者や高齢弱者のせいにして、平然と公言してきた人びともあります。

かろうじて、発言の自由は認められている国なので、何を言っても罰せられることはありません。だから、当事者にとって酷く侮蔑的な言葉も、「差別とは思わなかった」と言えば、なあなあで許してもらえてきたし、「考え方の違いだから人の勝手でしょ」というようなものもあるでしょう。でも、こんな犯罪が起きてしまった以上、差別主義者は口を慎むことです。

一人ひとりが、自分の内面に目を向けて、差別の芽を摘み取る。そして、差別は「国民レベルで」許さないことが急務であると考えます(実は「国民レベルで」、っていう言い回しは嫌いですが)。生存の価値を物差しで測って、生きていい人とそうでない人の間に線引きをするような言動は厳しく咎め、絶対に認めない態度を示していきたいものです。特に、社会的地位のある人の言動は、すべての人の尊さを認める倫理的なものであってほしい。

国は再発防止策として、隔離強化を考えているようですが、そもそも健常者と障害者を分け隔てる、義務教育のあり方を大きく変えていかなければ、抜本的な対策とは言えず、DPI(障害者インターナショナル日本会議)等の関係者と学識経験者などで政策提言に向けて、調整を始めようとしています。私もそこに関わって、意思疎通ができない重度障害者の思いを盛り込んでいきたいと考えています。

そして、容疑者と同世代の息子を持つ母親として、子どもたちには、みんなで支えあって生きていけば、未来の希望につながることを信じてもらいたい。困っている人には、素直な気持ちで手を差し伸べ、自分が困った時には安心して「助けて」と言えるような暮らしをしてほしいです。

この事件は、健常者の生き難さにも真摯に向き合っただけでなかった日本社会に、深い反省

を投げかけているのではないのでしょうか。いわば福祉的支援が必要な者は障害者以外にもたくさんいるわけですから、彼らの困難に気づき、寄り添うことによって、優生思想の温床を絶やしていくことが、もっとも有効な再発防止策ではないでしょうか。



**【略歴】** 川口 有美子（かわぐち・ゆみこ） 日本ALS協会理事、訪問介護事業所「ケアサポート モモ」代表取締役、NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会副理事長

1995年に母がALSを発症。96年から在宅人工呼吸療法を開始。家族介護の辛酸を舐めつくし、一大決心して03年訪問介護事業を開始。介護のアウトソーシングを始めました。翌年にはNPO法人も立ち上げて現在に至っています。自らの体験からALSの家族の選択と葛藤を描いた『逝かない身体』（医学書院）で2010年第41回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。2013年2月立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程修了。2014年1月博士論文（改稿）「生存の技法 ALSの人工呼吸療法をめぐる葛藤」で河上肇賞奨励賞受賞。

座右の銘は「信じる者は救われる」。趣味は終末期および人工呼吸器ユーザーで全身麻痺の人の独り暮らしコンサルタント。この人たちが働ける限り働いて燃え尽きるように亡くなっていくのを観戦しつつ、都会の片隅でワインと3匹の猫と暮らしています。

#### お供え“お裾分け” 寺院がひとり親家庭に食料支援 大阪日日新聞 2016年9月23日

仏様にお供えされた食料品やお菓子などを“お裾分け”して、経済的に困難な状況にあるひとり親家庭へ送り届ける「おてらおやつクラブ」の活動が全国の寺院に広がっている。9月現在で47都道府県の440寺（大阪府では37寺）が宗派を超えて参加し、約4千人の子どもを支援。食料品と共に寺院が発信する「見守っている」とのメッセージは、ひとり親家庭の孤立防止にもつながっている。

食料品やお菓子を段ボール箱に詰める僧侶たち。ひとり親家庭の孤立化防止につなげようと手書きのメッセージを添えて「見守っている」との思いを伝えている＝12日、大阪市旭区の大道寺

##### ■残されたメモ

おてらおやつクラブは奈良県田原本町にある安養寺の松島靖朗住職（41）が発案。きっかけは、2013年5月に大阪市北区のマンションで2人暮らしの母親＝当時28歳＝と長男＝同3歳＝が遺体で見つかり、「たくさん食べさせてあげられなくてごめんね」という趣旨のメモが部屋に残されていたというニュースだった。衝撃を受けた松島住職は「なんでもいい。できることをやろう」と、大阪市内の支援団体と連携。14年1月から本格的な取り組みを始めた。

多くの寺院では、お供え物を「おさがり」として住職や家族が食すほか、周辺住民や関係先などに「お裾分け」している。同クラブはこの習慣を社会活動化。支援団体と情報共有し、お供えされた食料品や日用品などをお裾分けする形で「6人に1人」といわれる貧困状態の子どもへ振り向けている。

##### ■「慈悲」の実践

12日夜、大阪市旭区の大道寺に地域の僧侶でつくる「新和会」のメンバー10人が集まり、2年前から同クラブに参加する光傳寺（同市天王寺区）の国子克樹副住職（46）の説明に耳を傾けた。

「ひとり親家庭にとっては、食べ物が届くことで誰かが見ているという安心感につながる。これは『慈悲』の実践活動」と国子副住職は強調。「できる範囲で長く続けてほ



しい」と参加を呼び掛けた。

続いてメンバーは、持ち寄ったお供え物の食料品やお菓子を二つの段ボール箱に詰め、支援団体とひとり親家庭へそれぞれ発送。「仏様はいつも見てくださっています」との手書きのメッセージを添えた新和会の飯田成晃会長（40）は「見返りを求めないお寺ならではの活動。ぜひ協力できれば」との意向を示した。

#### ■声掛けしやすく

現在、全国で200近い支援団体がおてらおやつクラブと連携し、預かった食料品の送付や参加寺院への情報提供などを行う。

このうち同市西淀川区にあるNPO法人西淀川子どもセンターは3寺院と連携。西川日奈子代表理事は「『ほっといてほしい』という親もいるが、お寺からいただいた食料品を届けることで声掛けがしやすくなり、家庭や子どもの様子も分かる」と、ひとり親家庭との信頼関係が築きやすくなったことを実感する。

松島住職は「取り組みを通じて国内に貧困問題があることを多くの人に知ってもらい、自分たちにできる行動をしてもらえたら」と活動のさらなる広がりを期待。そして「問題解決の社会的インフラとしてお寺が活用されることを目指したい」と話している。

#### 日中韓が「平昌宣言」を採択 スポーツ交流で平和を 共同通信 2016年9月23日

日中韓3カ国は23日、2018年冬季五輪・パラリンピックが開かれる韓国北東部の平昌でスポーツ行政担当相の会談を開き「スポーツ交流を通じて相互理解と信頼を強化し、これを基盤に東アジアの平和共存のため努力する」とうたう「平昌宣言」を採択した。

3カ国は平昌冬季五輪と20年東京五輪、22年北京冬季五輪の成功のために運営ノウハウの共有などで協力を深めていく方針を確認。「日中韓のスポーツ交流と協力がそれぞれの国民に対する理解拡大の重要な礎になることを認識し、3カ国の未来志向の交流協力を定着させていく」と強調した。

また今回初めて開いた担当相会談を定例化し、2回目を18年に東京で開くことを決めた。

会談には松野博一文部科学相と鈴木大地スポーツ庁長官、中国国家体育総局の劉鵬局長（閣僚級）、韓国の趙允旋文化体育観光相が出席。署名式には国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長も同席した。

宣言では日中韓がドーピング防止で協力し「選手保護の先頭に立ち、世界に公平なスポーツ精神を広める」としたほか、女性や障害者、高齢者を含む「すべての人々のスポーツ活性化」や、スポーツ産業がアジア発展の原動力になるよう努力することなどで一致した。

#### 新薬開発にAI活用、厚労省 効率化狙い 共同通信 2016年9月23日

がんや生活習慣病などの治療薬を効率的に作り出すことを目指し、厚生労働省が人工知能（AI）を利用した新薬開発に乗り出すことが23日、分かった。来年度予算に3億5千万円を要求している。

国立研究開発法人の医薬基盤・健康・栄養研究所（大阪府）が新薬開発に特化したAIを開発する。AIに病気のメカニズムに関する国内外の医学論文や薬の情報を大量に入力。AIは、病気に関係する体内物質を推定し、さまざまな化合物から有望と考えられる薬の候補を探し出す。

これをもとに、動物実験などで安全性や有効性を確認。数年後には実用的な新薬につなげたい考えだ。

